

20231004 分ければ資源、混ぜればゴミ！

前回のテーマは「生ゴミは燃やさず再利用しよう！」でした。では、世界と比べて日本はどうなっているのでしょうか。やはり、日本は遅れているのでしょうか。少なくとも町を歩いていて、ゴミだらけで汚いという印象は、ここ花小金井ではありません。海外に旅行に行った人からは、日本ほどきれいな国はないと聞きます。しかし、私が子どものころの町は、それはそれは汚かったです。駅のホームの下の側溝（雨水が流れる溝）は、投げ捨てられたたばこの吸い殻で溢れていましたし、ちょっとした茂みには無造作にゴミがたくさん捨てられていました。ナンバープレートを外した車が、空き地に捨てられていました。飲み終わったジュースの空き缶は、平気で投げ捨てられていました。みんなそうしていました。風光明媚な観光地でさえ、「旅の恥は・・・」ではないですが、観光客のモラルは相当低かったと思います。私はゴミや環境に対する日本人の意識、モラルは少なくとも私が子どもの昭和の頃より格段に良くなっていると思います。では、国際社会という目で見るときに、今の日本はどうか、「生ゴミ」に焦点を当てて考えてみたいと思います。

まず、再度確認しておきたいのは、生ゴミは80%が水であるということです。だから、生ゴミをゴミとして出すこと自体がそもそも問題であるということです。生ゴミをどう扱うか、そこに国や自治体の考え方が反映されるように思います。そして、その取組がその国の人の意識、モラルを大きく育てるようにも感じます。意義を理解させ、仕組みを整え、明確で誰でもできる「具体的な取組」を示し、一致した行動をとる中で、人々のモラル自体もよりよく改まるということです。

さて、OECDのデータを見ると、世界のリサイクル＋コンポスト率では、

日本は断トツで下位です。20%にも達していません。しかし、待てよ！日本国民は、とてもまじめにゴミを分別しています。学校でも分別を教え、しつけています。それなのにこれは一体どういうことでしょうか。日本のリサイクル率の低さの大きな原因は、ずばり「生ゴミ」です。ゴミの30～50%を占めるといわれる生ゴミがほとんど再資源化されていないのです。この生ゴミが資源化されれば、日本のリサイクル率は飛躍的に上がります。世界でも突出してごみの焼却率が高く（ぶっちぎりで世界一！）、資源化が遅れている日本にあって、改善のひとつの肝は「生ゴミ」です。食品ロスを防ぐとともに、生ゴミを資源化する取組を急速に進める必要があるといえます。まずは、生ゴミ自体を燃えるゴミから分離して、生ゴミに特化した回収・再資源化のシステムをつくるのが大切なのではないのでしょうか。